地方公共団体名	秋田県

令和６年度
外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業　事業成果報告書

【外部講師を活用して実施するがん教育の推進に係る取組】

1　事業の具体的内容について

（1）自治体における取組

①　がん教育推進協議会について

1．構成員

○全員で 13 人

	所属・役職	専門分野等
1	秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻長・教授	学識経験者、がん専門医
2	一般社団法人秋田県医師会常任理事	医療関係者（内科皮膚科
3	公益社団法人秋田県看護協会	医療関係者（がん専門看護師）
4	秋田県がん患者団体連絡協議会副代表	がん経験者
5	秋田県中学校長会	中学校長
6	秋田県高等学校長協会	高等学校長
7	秋田県養護教諭研究会	養護教諭
8	秋田県健康福祉部健康づくり推進課長	保健福祉部局
9	秋田県教育庁保健体育課長	行政関係者
	秋田県教育庁保健体育課員４名	行政関係者

○連携先

秋田県医師会、秋田県看護協会、秋田県がん患者団体連絡協議会、健康福祉部健康づくり推進課

2．開催時期、検討内容

	期　日	出席者	内　　容
第１回	令和６年 7月 31 日	13 名	・令和６年度秋田県がん教育推進事業について ・がん教育動画の作成と活用について
第２回	令和７年 1月 22 日	12 名	・令和６年度秋田県がん教育推進事業の成果と課題について ・令和７年度秋田県がん教育推進事業について ・がん教育動画の活用について

②　教育委員会としての取組

1．がん教育アドバイザーの委嘱

秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻長・教授　安藤秀明氏

【がん教育アドバイザーの役割】

・事業全般への指導助言

・がん教育推進協議会における指導助言

・外部講師研修会講師、外部講師への助言等

2．がん教室に外部講師（医師と経験者）を派遣

○中学校、高等学校、特別支援学校高等部１５校に外部講師を派遣し、１６校で実施（そのうち１校はオンラインを活用）

【がん教室実施校】

	学校名	テーマ
1	鹿角市立花輪中学校	がんと向き合う
2	北秋田市立義務教育学校阿仁学園	「がん」を正しく知り、病気と共生していく自分の生き方を考えてみよう
3	能代市立能代第一中学校	がんを正しく理解し、健康と命の大切さについて考える
4	能代市立二ツ井中学校	「がん」という病気を正しく理解しよう
5	大潟村立大潟中学校	がんの正しい理解と健康・命の大切さを考える
6	秋田市立御所野学院中学校	がんを正しく知り、備える
7	由利本荘市立東由利中学校	がんについて知ろう！学ぼう！
8	仙北市立角館中学校	がんと生きるために～大切な人にがん検診をすすめよう～
9	仙北市立神代中学校	
10	湯沢市立雄勝中学校	テーマの設定なし
11	湯沢市立湯沢北中学校	がんは早期発見(検診)が重要
12	県立男鹿工業高等学校	がんを正しく知り、行動する
13	県立新屋高等学校	「がん」について学ぶ
14	県立矢島高等学校	がん教室～専門医によるがんの話～
15	県立六郷高等学校	がん教室
16	県立支援学校天王みどり学園	「がん」を正しく知ろう

○がん教室の内容等については、「（２）外部講師を活用したがん教育の授業」に記載

3．がん教育指導者研修会の開催

○期　日：令和６年 11 月 22 日

○場　所：秋田県総合教育センター

○参加者：小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教職員 93 名参加

○内　容：講義Ⅰ　「がん教室」デモンストレーション

講義Ⅱ　「外部講師として学校に望むこと」

市立秋田総合病院　外科診療部長兼乳腺・内分泌外科科長　片　寄　喜　久　氏

秋田県がん患者団体連絡協議会　きぼうの虹副代表　田　中　鈴　子　氏

説　明　「学校におけるがん教育について」　県教育庁保健体育課担当

分科会　「自校におけるがん教育の取組について」

4．がん教育外部講師研修会の開催

○期　日：令和６年７月２４日

○方　法：集合型と後日オンデマンド配信

○対　象：既存の外部講師リスト登録者、がん教育に関心のある医療従事者、がん経験者等

○受講者：集　　合１０名（医療関係者４名、がん経験者６名）

オンデマンド 14 名（医療関係者 11 名、がん経験者３名）

○内　容：講　義　「がん教育で何をどう伝えるか」

秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻長・教授　安　藤　秀　明　氏

説　明　「本県におけるがん教育について」　県教育庁保健体育課担当

5．令和６年度外部講師を活用したがん教育実施マニュアルの周知

外部講師リストの掲載されているマニュアルを、各市町村教育委員会、県立学校に通知

６．がん教育動画の作成

がん教育アドバイザーの協力を得て、学校で活用できる 10 分程度の動画を作成

③　保健部局や地域の専門機関等との連携

１．がん教育外部講師研修会

医師会、看護協会、患者会を通して、関心のある医療関係者に案内を周知

２．秋田県がん対策推進計画

第４期秋田県がん対策推進計画の「がん教育・がんに関する知識の普及啓発」の中に、学校における外部講師を活用したがん教育の実施率を目標として設定し、現状値を報告

（２）外部講師を活用したがん教育の授業

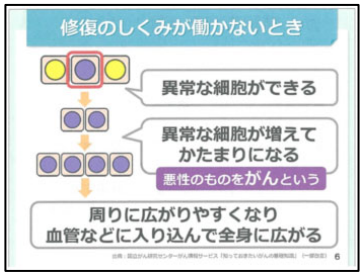
北市立角館中学校・仙北市立神代中学校		中学校	３年生（８８人）
授業時数	２時間	実施科目	総合的な学習の時間

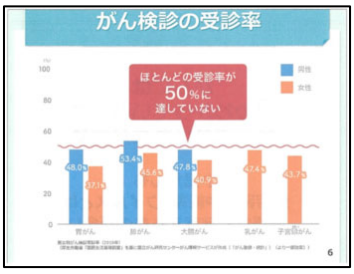
テーマ：がんと生きるために～大切な人にがん検診をすすめよう～

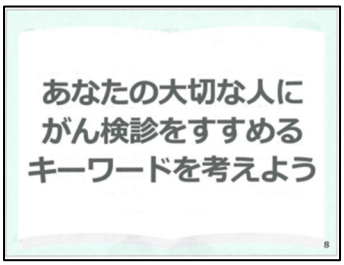
講　師：がん専門看護師　福　田　麻　実　氏

経験者　　小　山　　央　氏

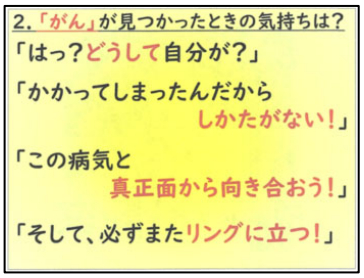
内　容：**がん専門看護師による講話**

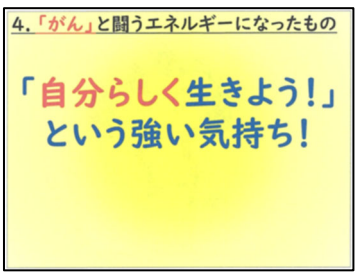


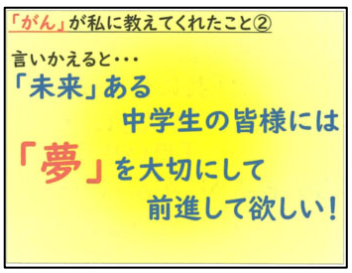




がん経験者による講話







グループワーク

あなたの大切な人が「がん」になってしまわないために、私たちは何ができるか。

・お酒を控えてもらうように話す。
・がん検診の大切さを伝え、検診に行ってもらうように声をかける。
・毎日一緒にいて、がんになりにくい生活習慣を心がける。

県立新屋高等学校		高等学校	１年生（１５８人）
授業時数	２時間	実施科目	保健体育科・科目保健

テーマ：「がん」について学ぶ

講　師：がん専門医　陳　　開　氏

　　経験者　　佐　藤　裕　子　氏

内　容：**がん専門医による講話**

「がんは早期発見（検診）が重要」

・がんの罹患状況、治療法、予防策等について、スライドと動画を用いて説明

・秋田県の特徴として、「がんが見つかると怖い」ので検診を受けない人が多いが、早く見つけた方が怖くないので、早く見つけよう。

・気をつけていてもがんになることはあるが、早期に発見できれば９割治る病気である。

がん経験者による講話

・市のがん検診を受けて、早期発見・早期治療ができ、運が良かった。

・健康の３原則（バランスの良い食事、適度な運動、十分な休養・睡眠）が大切。

グループワーク

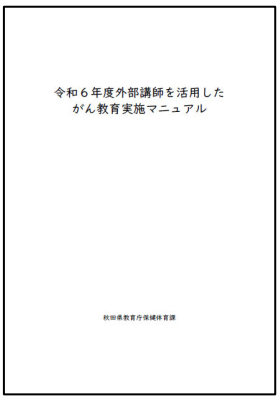
あなたの大切な人が「がん」になってしまわないために、私たちは何ができるか。

・規則正しい生活習慣を自分も、大切な人も心がける。
・仕事をしすぎない、通勤を車から歩きに変えるなど、習慣を見直す。
・一緒に運動したり、散歩をしたりする。
・健康な食事を食べてもらえるように、料理をする。

（３）その他

①　令和６年度外部講師を活用したがん教育実施マニュアルの周知

外部講師リストを掲載したマニュアルを各市町村教育委員会、学校に周知した。

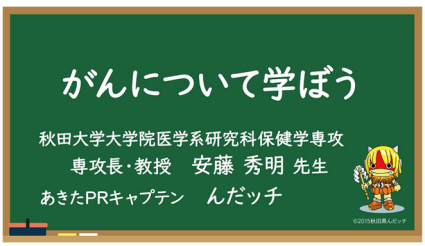


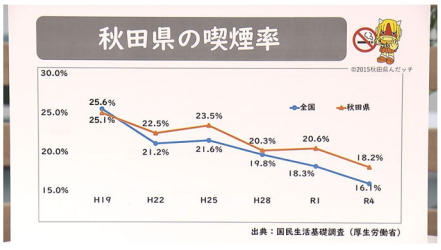
②　がん教育動画の作成

○がん教育アドバイザー、健康福祉部健康づくり推進課、秋田朝日放送、明治安田生命等の協力を得て、がん教育動画を作成した。本県のホームページに掲載し、学校でのがん教育等に活用できるように周知する。

○内容

１．「がん」って何？
２．どうして「がん」はできる？
３．どうして「がん」を学ぶの？
４．「がん」を避けるためには？
５．がん検診

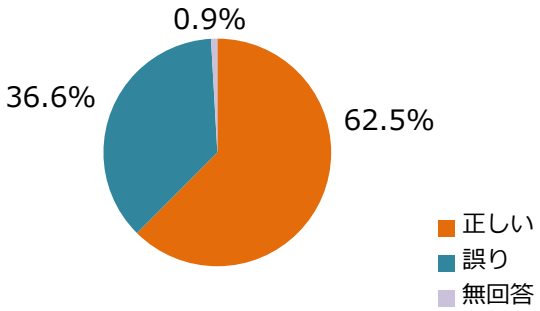




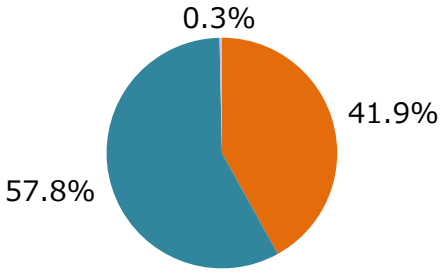
2　事業の達成度について

（１） がん教室事前・事後アンケートの結果（がん教室実施校１６校）

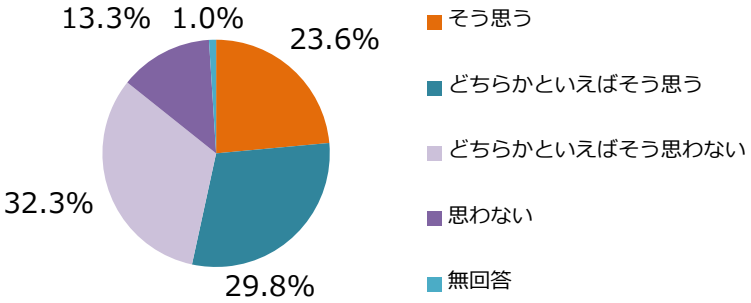
がんは日本人の死因の第２位である（事前）



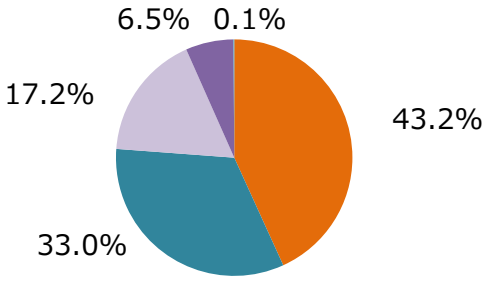
がんは日本人の死因の第２位である（事後）



がんになっても
生活の質を高めることができる（事前）



がんになっても
生活の質を高めることができる（事後）

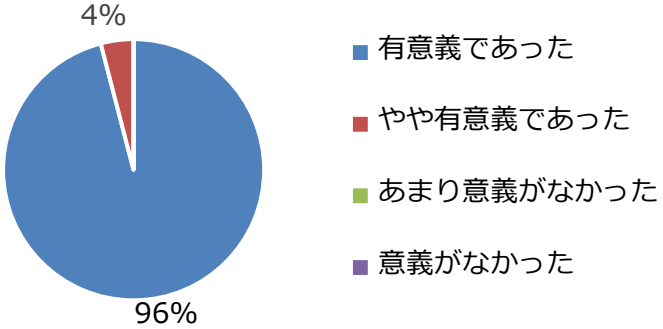


・がんは生活習慣を改善すれば予防できると思っていたが、原因の半分ぐらいはまだ分からないということに驚いた。がんは全て予防できるわけではないので、正しい情報を身につけることが大切だと分かった。
・実際にがんになった方や講師の話を聞いて、自分の健康管理や生活習慣を見直そうと改めて思った。グループワークを通して色々な人と考えを共有することで理解が更に深まった。自分だけでなく周りの人もがんにならないように自分でできることを考えたい。
・がんについて自分の知らなかったことを理解することができてよかった。大事な人を失わないために、また、将来自分ががんにならないために今日習ったことを忘れずに今自分ができることを積み重ねていきたい。がんで苦しんでいる人たちが少しでも過ごしやすい社会になってほしい。

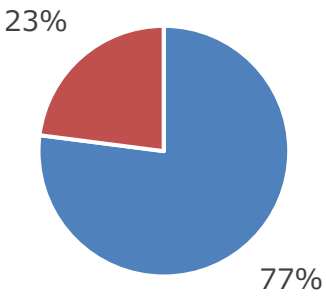
がん教室のねらいである、「がんに関する正しい知識を身に付ける」と「命の大切さを考えたり、がん患者への正しい認識を深めたりすることをとおして、望ましい生活習慣の形成する」の両方について、事後アンケートの数値が高まっている。また、感想から医療関係者、経験者、それぞれでなければわからない知識や心情、気持ちの変化を理解していることがわかり、ねらいの達成につながっている。

（２） がん教育指導者研修会アンケートの結果

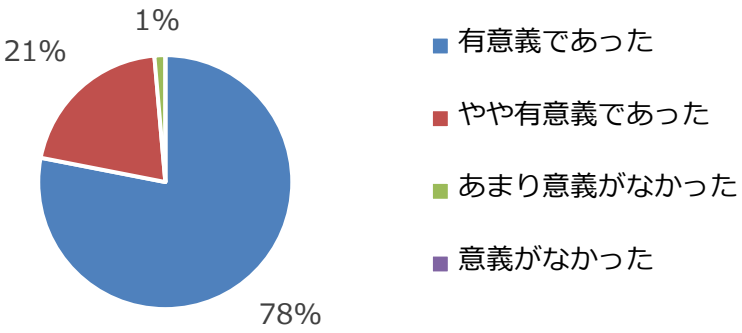
講義Ⅰ　「がん教室デモンストレーション」



講義Ⅱ　「外部講師として学校に望むこと」



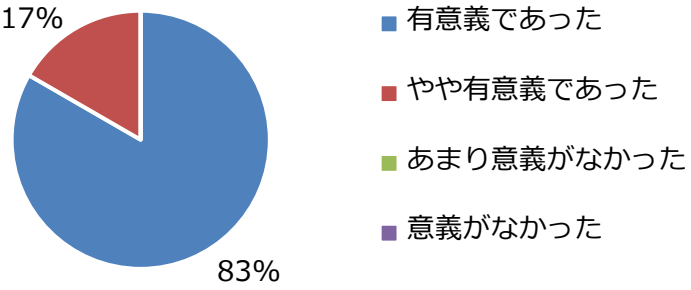
グループ協議　「自校におけるがん教育の取組について」



・がんそのものを教えるのではなく、がんを通して健康な生活を送るための指導をするということがわかった。動画や資料、講師リストなどの情報が得られたので、体育科の職員と情報共有したい。グループ協議では１年生の保健とリンクさせてがん教室を行うなど、がん教室の取り入れ方について参考なった。
・指導の方向性について、他校の教職員と話し合う事で、具体的に考える事ができ、大変参考になった。学校保健計画や職員に対するがんについての研修から、実践していきたい。

今年度は、がん教室で外部講師を務めてくださっている医師と経験者を講師に迎え、がん教室のデモンストレーション等を実施した。アンケートや感想からは、外部講師を活用するメリットや実施した学校での取組等を知ることができ、有意義な研修となったことがわかった。次年度の研修会については、各校種別の取組好事例を周知できるような内容を検討したい。

（３）がん教育外部講師研修会アンケートの結果



・具体的な授業の展開方法、発表する人は先生方や子どもたちに任せる姿勢など参考になった。
・「講義ではなく授業である」という視点、「がん『を』教えるのではなく、がん『で』教えたい」という言葉がそれぞれ強く印象に残り、今後の自分の活動の柱としたいと考えた。

集合型の研修会には、経験者の方が多く参加してくださった。アドバイザーからの講義や助言、外部講師経験がある方のお話は、リストに登録する方の不安の解消に効果的であった。

3　今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題等）

・外部講師を安定的に確保し、がん教室の内容の充実に向けて、外部講師研修会等を継続して実施していく必要がある。研修会の周知、外部講師リストの作成のため、がん診療拠点病院、医師会、看護協会、患者会、県健康福祉部等と連携していく。
・がん教室の実施を希望する学校数は増加傾向にあるが、本課から希望校すべてに外部講師を派遣することが難しい状況である。オンラインでの同時開催や外部講師リストの活用等、実施校を増やす取組が必要である。
・作成したがん教育動画を周知して活用していただくとともに、活用実践例を収集し、好事例を全県の学校に発信していく必要がある。